

(様式3)

農業研究成果情報

No. 767 (平成 29 年 5 月) 分類コード 02-04 熊本県農林水産部

イチゴ「ゆうべに」の本ぼ基肥窒素量は 4 kg/10a 程度を基準とする

イチゴ「ゆうべに」は、本ぼ基肥窒素量が多いと定植後の生育が旺盛となり、品質低下により可販果の年内収量と総収量及び秀品率が低下する。基肥窒素量 4 kg/10a は、年内の可販果収量及び総収量が多く品質が安定する。

農業研究センター農産園芸研究所野菜研究室 (担当者: 田尻一裕)

い業研究所野菜栽培研究室 (担当者: 立場真衣)

研究のねらい

本県では、果実品質が安定し収量性の高い「ゆうべに (品種名: 熊本 VS03)」を育成したが、本来の品種特性を発揮するには品種に適した栽培法の検討が必要である。

そこで、「ゆうべに」の栽培技術を確立することを目的に、本ぼの基肥量が生育及び収量に及ぼす影響について検討する。

研究の成果

1. 定植後のクラウン径及び葉数に対する基肥窒素量の影響は小さいが、基肥窒素量が多いほど草丈が長く、葉色が濃い (表 1、表 2)。
2. 頂花房の出蕾、開花及び花数に対する基肥窒素量の影響は小さい。また、可販果平均重は基肥窒素量 4 kg/10a で 6 kg/10a よりやや軽い、基肥窒素量が少ないほど秀品率は高く、先青果の発生が少ない (表 3、表 4)。
3. 基肥窒素量 6 ~ 12 kg/10a (H26 農産園芸) では、6 kg/10a で可販果の年内収量及び総収量が多い。基肥窒素量 4 ~ 8 kg/10a (H27) では、基肥窒素量が多いほど可販果の総収量が少ない。4 kg/10a で可販果の年内収量が安定し、総収量が多い (表 3、図 1、図 2)。

普及上の留意点

1. 農産園芸研究所では、平成 26 年度及び 27 年度に試験を実施、いずれも定植は 9 月 18 日に行い、基肥は有機入り配合肥料 (有機率 95.5%、窒素 7%リン酸 6%カリ 2%) を用い、全層施肥で通常の畝立て栽培で行った。い業研究所では、平成 27 年度に試験を実施、定植は 9 月 24 日に行い、基肥は有機入り配合肥料 (有機率 94%、窒素 4%リン酸 6%カリ 2%) を用い、全層施肥で通常の畝立て栽培で行った。
2. 農産園芸研究所においては、牛ふんおがくず混合堆肥 (農研センター畜産研究所) 約 2 トン/10a を 7 月上旬に投入した。施肥前 (8 月下旬) の土壌分析では、平成 26 年産が p H6.1、E C 0.21 dS/m、硝酸態窒素 0.1 mg/100g 乾土で、平成 27 年産が p H6.3、E C 0.24 dS/m、硝酸態窒素 0.2 mg/100g 乾土であった。
3. 基肥量は、収量及び品質に大きく影響を及ぼすので、必ず土壌分析結果を踏まえて決定する。特に、農薬での土壌消毒後や不耕起栽培では、窒素成分が多くなる傾向にあり、生育が旺盛になりやすいので、注意する。

表 1 N基肥量と定植後(10月7日)の生育(H26農産園芸) 12株平均

N基肥量 (10a当り)	クワン径 (mm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	草高 (cm)	展開第3葉			
					葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉色 (SPAD)
6kg	15.0	8.0	22.6	17.4	8.3	8.3	7.1	34.1
9kg	15.2	8.1	24.3	17.6	8.7	9.2	8.0	36.4
12kg	15.3	7.9	24.3	16.8	8.5	9.2	7.5	37.4

表 2 N基肥量と定植後(10月6日)の生育(H27農産園芸) 12株平均

N基肥量 (10a当り)	クワン径 (mm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	草高 (cm)	展開第3葉			
					葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉色 (SPAD)
4kg	15.1	8.2	21.1	16.5	8.7	9.1	7.7	35.1
6kg	15.7	8.3	22.2	17.9	9.1	9.5	8.1	36.1
8kg	15.8	8.3	23.9	18.9	9.9	9.8	8.6	38.8

表 3 N基肥量と開花特性及び可販果収量 (H26農産園芸)

1区14株3反復

N基肥量 (10a当り)	頂花房		第1次腋花 房出蕾日	可販果 平均重	秀品率 (%)	先青果 発生率 (%)	可販果収量		
	出蕾日	開花日					花数 (花/株)	年内	総収量 (kg/10a)
	(月/日)	(月/日)							
6kg	10/13	10/25	17.2	11/8	17.3	92.4	0.0	1,828	6,193
9kg	10/12	10/24	18.0	11/9	17.7	90.8	0.1	1,683	5,787
12kg	10/12	10/25	17.0	11/10	17.5	88.2	0.3	1,598	5,741

注) 出蕾日及び開花日は平均日

表 4 N基肥量と開花特性及び可販果収量 (H27農産園芸)

1区12株3反復

N基肥量 (10a当り)	頂花房		第1次腋花 房出蕾日	可販果 平均重	秀品率 (%)	先青果 発生率 (%)	可販果収量		
	出蕾日	開花日					花数 (花/株)	年内	総収量 (kg/10a)
	(月/日)	(月/日)							
4kg	10/11	10/24	13.5	11/7	16.6	95.3	0.0	1,628	5,687
6kg	10/10	10/23	14.4	11/10	17.0	90.4	0.0	1,585	5,399
8kg	10/9	10/22	14.9	11/9	15.8	88.1	0.6	1,502	5,176

注) 出蕾日及び開花日は平均日

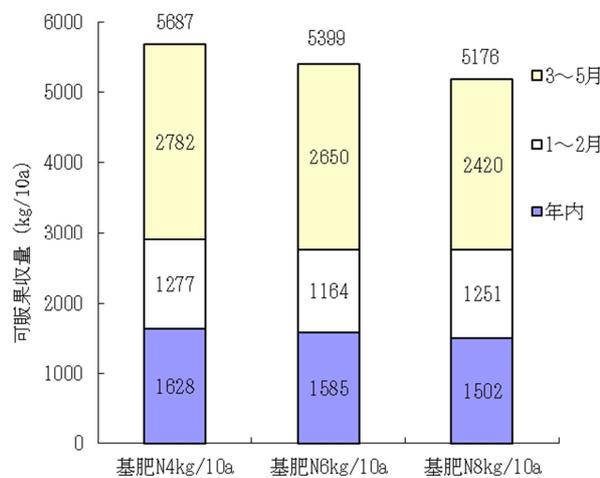


図 1 基肥量と時期別可販果収量 (H26農産園芸)

注) 5月は5/13まで

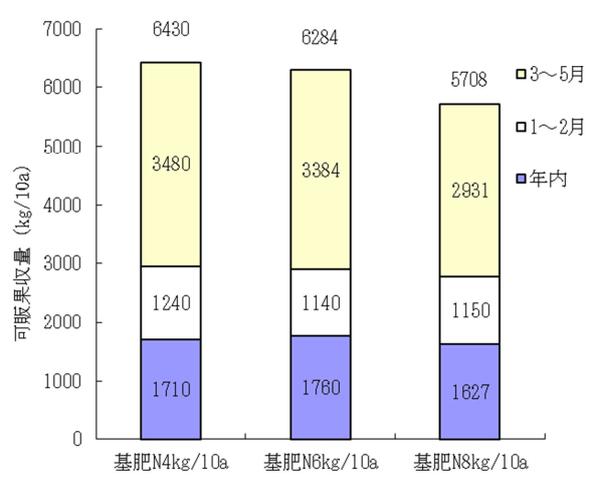


図 2 基肥量と時期別可販果収量 (H27い業研)

注) 5月は5/13まで